

Vol.238 学校教育現場の課題

学校は、子どもたちの未来を育むための学びの場です。現代の学校教育現場では、社会環境の急激な変化に伴い、知識や技能に加えて、社会性や心身の発達を促す総合的な教育活動を担う「教師」の役割が、以前にも増して重要になっています。では、学校教育現場の課題について、教員自身はどのように感じているのでしょうか？今回は、全国の中学・高校の教員1,400人を対象に、教師の仕事へのやりがいと大変さ、教師の仕事の負担や困り事の内容、学校教育現場の課題について調査しました。

調査概要

調査対象：全国の中学・高校の教員 1,400人

調査方法：インターネットリサーチ

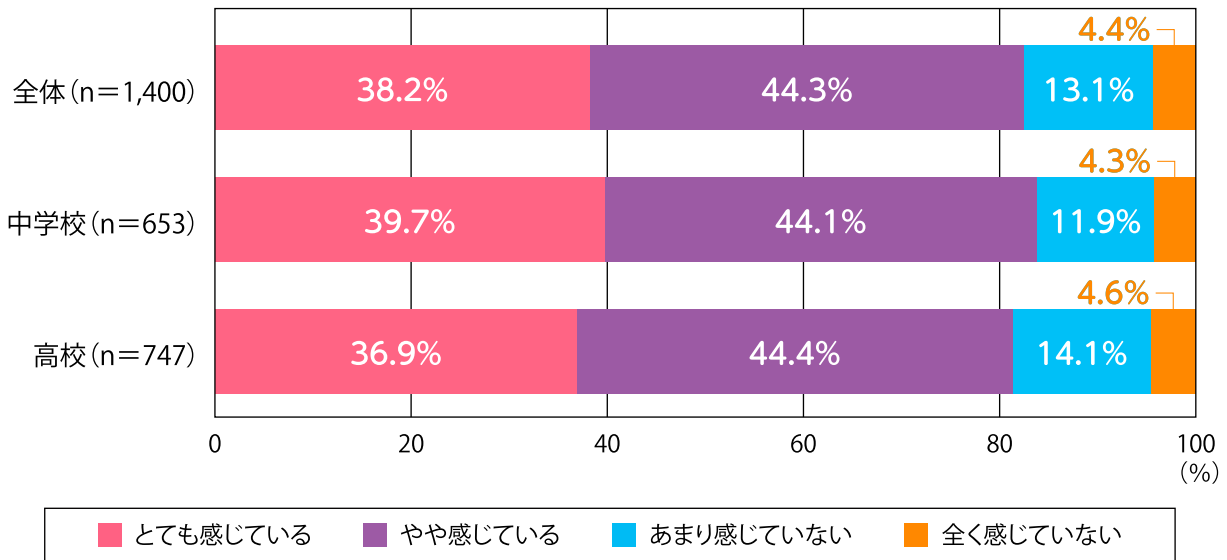
実施時期：2025年7月



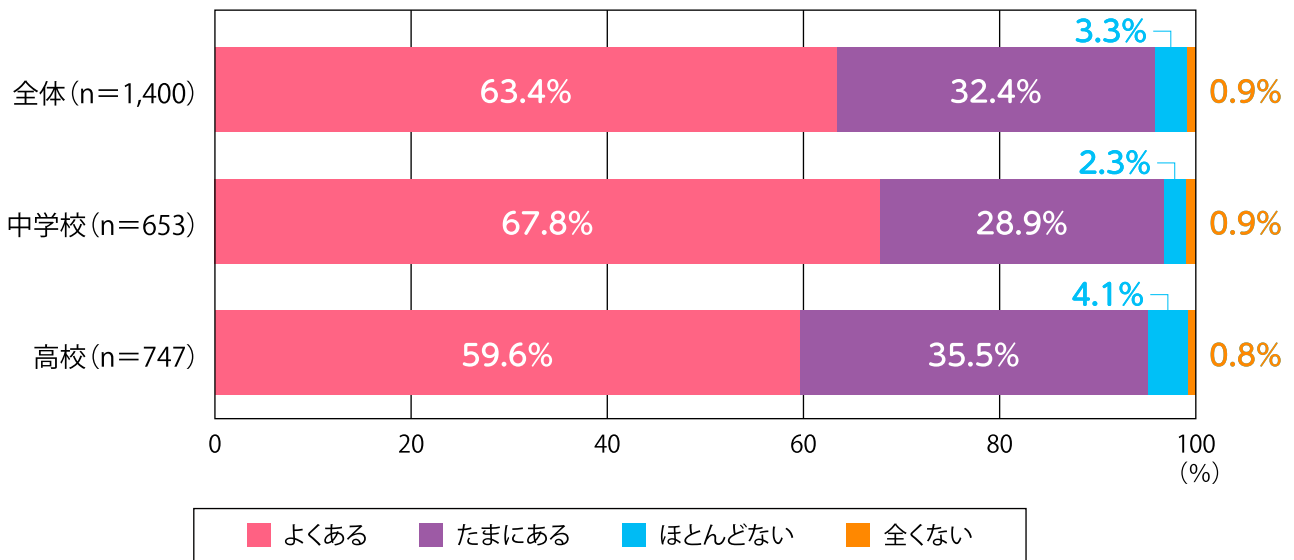
Q 1. 教師の仕事へのやりがいと大変さ

教師という仕事へのやりがいについては、「とても感じている」(全体38.2%、中学校39.7%、高校36.9%)と「やや感じている」(全体44.3%、中学校44.1%、高校44.4%)をあわせると、中学・高校の教員の8割以上が、教師という仕事にやりがいを感じていると回答していました。一方、仕事を大変だと感じる頻度については、「よくある」(全体63.4%、中学校67.8%、高校59.6%)という結果で、中学校では7割近くにのぼりました。さらに「たまにある」(全体32.4%、中学校28.9%、高校35.5%)という回答をあわせると、中学・高校の教員ともに、教師の仕事が大変だと感じている割合は9割を超えていました。

【教師の仕事へのやりがい】



【教師の仕事の大変さ】

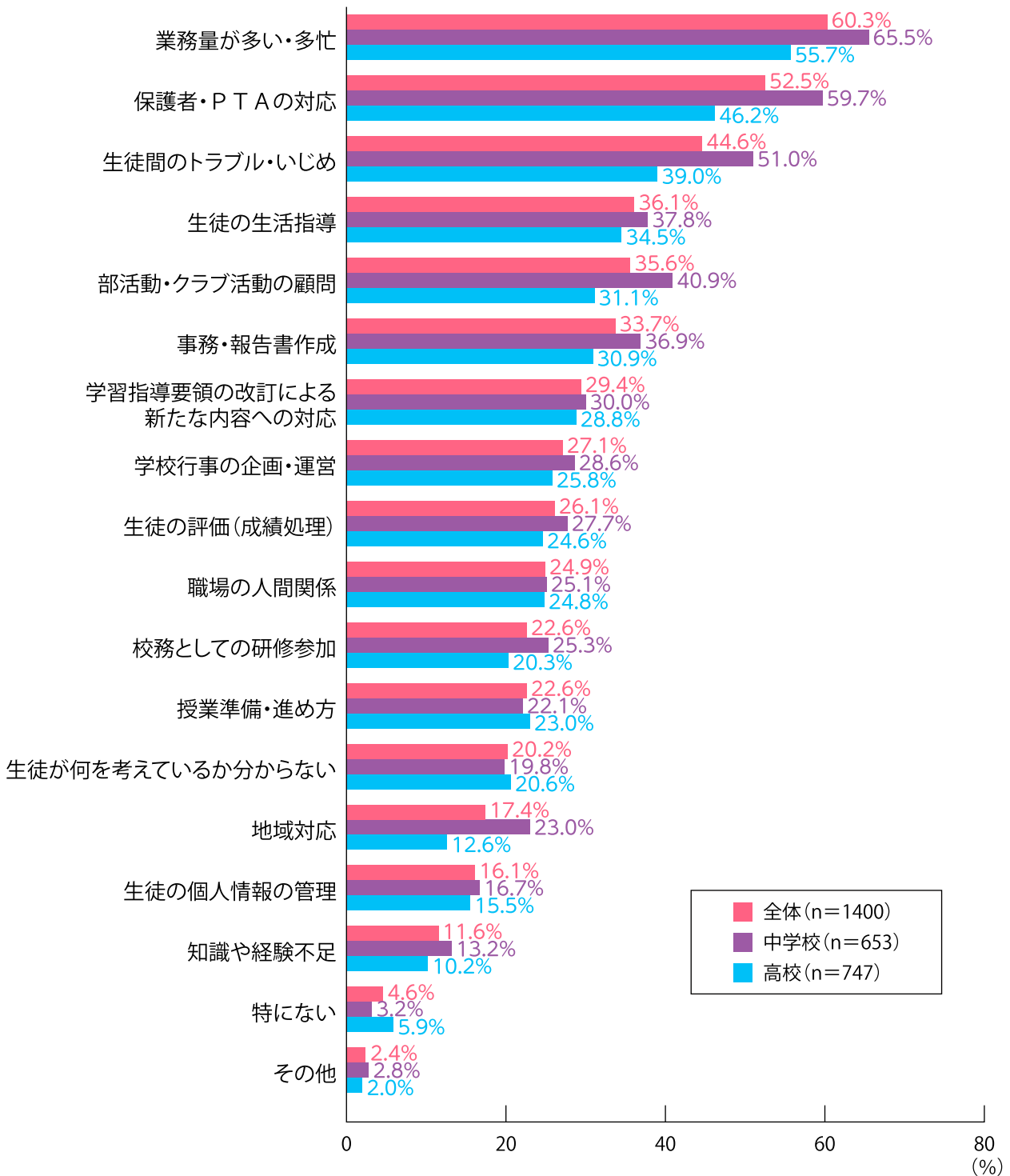


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【図1】 現在、あなたは教師という仕事に、やりがいを感じていますか。また、教師という仕事について、大変だと感じることはありますか。(単数回答)

Q 2. 教師の仕事の負担や困り事の内容

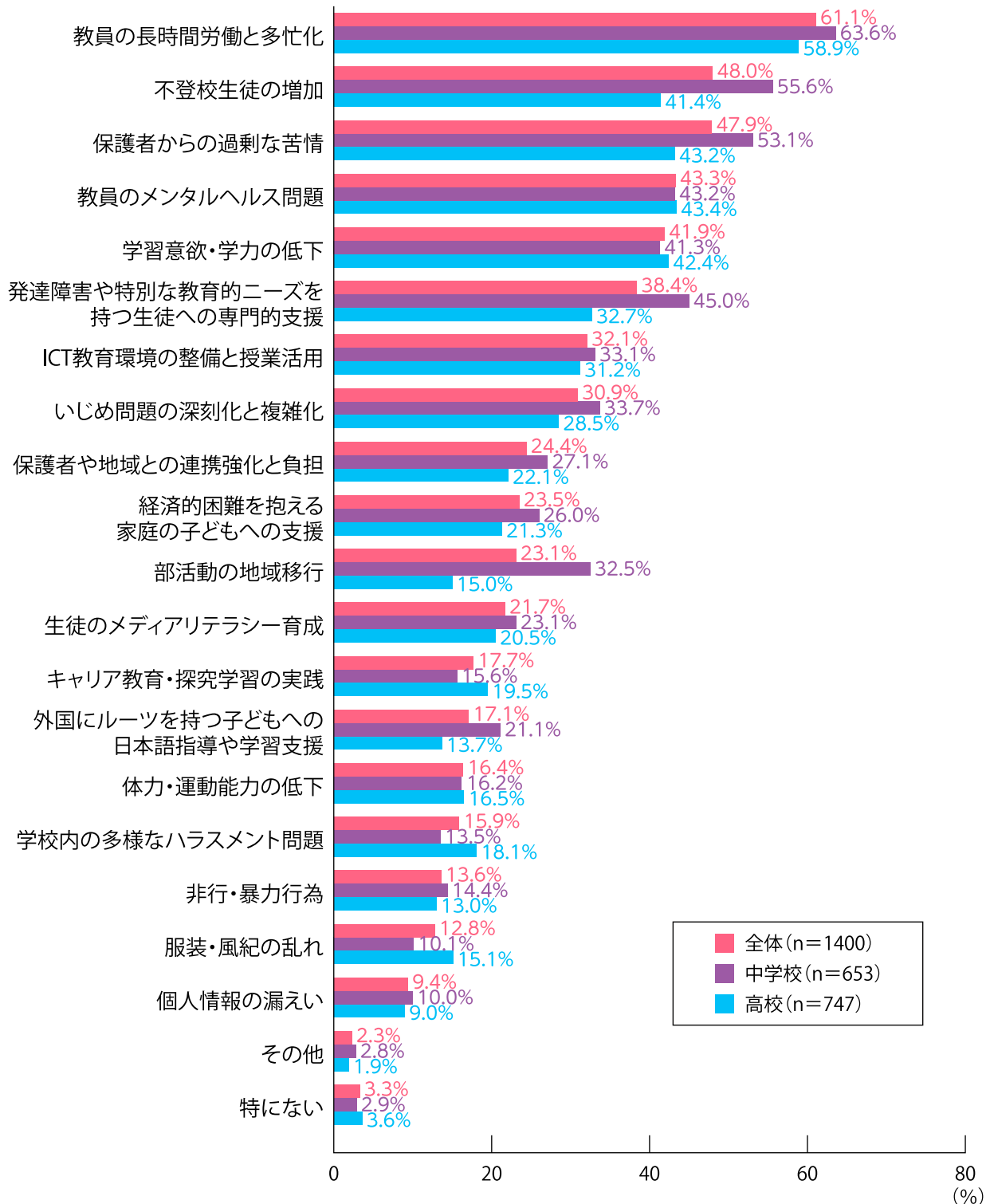
中学・高校の教員が困っていることや負担に感じている点としては、「業務量が多い・多忙」(全体60.3%、中学校65.5%、高校55.7%)が最も多くあげられました。次いで、「保護者・PTAの対応」(全体52.5%、中学校59.7%、高校46.2%)、「生徒間のトラブル・いじめ」(全体44.6%、中学校51.0%、高校39.0%)、「生徒の生活指導」(全体36.1%、中学校37.8%、高校34.5%)、「部活動・クラブ活動の顧問」(全体35.6%、中学校40.9%、高校31.1%)、「事務・報告書作成」(全体33.7%、中学校36.9%、高校30.9%)など、多岐にわたっていることがうかがえます。




【図2】 あなた自身が教師という仕事をする上で、困っていることや負担に感じていることは、どのようなことですか。(複数回答)

Q 3. 学校教育現場の課題

中学・高校の教員が考える学校教育の課題としては、「教員の長時間労働と多忙化」(全体 61.1%、中学校 63.6%、高校 58.9%)が最も多くあげられました。続いて、「不登校生徒の増加」(全体 48.0%、中学校 55.6%、高校 41.4%)、「保護者からの過剰な苦情」(全体 47.9%、中学校 53.1%、高校 43.2%)、「教員のメンタルヘルス問題」(全体 43.3%、中学校 43.2%、高校 43.4%)、「学習意欲・学力の低下」(全体 41.9%、中学校 41.3%、高校 42.4%)、「発達障害や特別な教育的ニーズを持つ生徒への専門的支援」(全体 38.4%、中学校 45.0%、高校 32.7%)といった課題があげられました。また、「部活動の地域移行」(全体 23.1%、中学校 32.5%、高校 15.0%)については、中学校での割合が多く、3割を超えていました。



【図3】 あなたが思う学校教育現場の課題は、どのようなことですか。(複数回答)

 **まとめ**

学校教育を取り巻く環境が大きく変化する中、教員の働き方改革が進められています。しかし現状では、日々の授業準備・実施、学校行事の企画・運営、生徒指導、部活動の顧問、保護者対応、書類作成など、教員の長時間労働と多忙化は依然として深刻であり、学校現場は複合的な課題に直面している状況にあります。

今回、全国の中学・高校の教員1,400人を対象に、教師の仕事へのやりがいと大変さについて調査したところ、仕事へのやりがいは「とても感じている」と「やや感じている」を合わせると、8割以上の教員がやりがいを感じていると回答していました。一方で、教師という仕事を大変だと感じる割合は、「よくある」と「たまにある」をあわせると9割を超えおり、教師という仕事に強いやりがいを感じながらも、負担の大きさが浮き彫りとなりました。

中学・高校の教員が困難や負担を感じている内容としては、「業務量が多い・多忙」(全体60.3%、中学校65.5%、高校55.7%)、「保護者・PTAの対応」(全体52.5%、中学校59.7%、高校46.2%)、「生徒間のトラブル・いじめ」(全体44.6%、中学校51.0%、高校39.0%)が多くあげられました。そのほかにも、「生徒の生活指導」「部活動・クラブ活動の顧問」「事務・報告書作成」など、授業以外の業務が多岐にわたっていることが示されました。また、教員自身が考える学校教育現場の課題は、「教員の長時間労働と多忙化」(全体61.1%、中学校63.6%、高校58.9%)、「不登校生徒の増加」(全体48.0%、中学校55.6%、高校41.4%)、「保護者からの過剰な苦情」(全体47.9%、中学校53.1%、高校43.2%)が上位にあげられていました。さらに、「教員のメンタルヘルス問題」や、生徒の「学習意欲・学力の低下」、「発達障害や特別な教育的ニーズを持つ生徒への専門的支援」なども重要な課題として認識されていました。

教員の多くが強いやりがいを感じている一方で、業務量の多さや保護者対応、生徒指導など多岐にわたる負担により、教員の9割以上が仕事の大変さを実感していました。長時間労働や多忙化は依然として深刻であり、教員が教育活動に専念できる環境整備は急務です。持続可能な学校教育を実現するためにも、教員の働き方改革のさらなる推進が求められています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

検索<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>